

まちかど未来塾 だより



10月(September)

	mon	tue	wed	thu	fri	sat
第1週		1	2	3 親カフェふらっと 10:00~12:00	4	5 小平ペアプロ② 14:00~16:00
第2週	7	8	9	10	11 まちかど英会話 10:30~12:30	12
第3週	14 体育の日	15	16	17	18	19 小平ペアプロ③ 14:00~16:00
第4週	21	24	25	26	27	28
第5週	28	29	30 武蔵村山ペアプロ ③	31		

13日(日) 発達支援4回連続講座 「子どものこころのSOSと大人のかかわり」丸谷充子先生in武蔵村山市 参加希望の方は芋生まで



Mirai Letter 78



当事者研究

「研究」は専門家が行うものかと思いがちですが、...

専門家は当事者ではないのでどうしても見逃してしまう部分が多くあり、大きなズレが生じてきます。

例えば自閉症スペクトラムの人たちは「自分の殻に閉じこもり、人との関わりが苦手」「パニックを起こす人」、「コミュニケーションが苦手な人」と言われていますが、...当事者からは違った捉え方になります。

例えば「なぜ、人との関わりが苦手なのか？なぜ、パニックを起こすのか？」当事者は決して「人と関わりたくない」とは思っていないと言います。そもそもどのような見え方、聞こえ方をしているのか？当事者から見えてくることは、言動の背景にあるモノが具体的に何なのか？に焦点が当てられてきます。このような研究は障害を持つ人も持たない人も共に理解していく事がより良い共生社会の実現につながると熊谷晋一郎氏(脳性麻痺という障害を持ちながら小児科医として、また東京大学先端科学技術研究センター障害と社会の関係に研究する)からのメッセージです。

「ペアレントメンター」もいわば「当事者研究」からの活動～「同じ気持ちを経験している家族は貴重な存在であり、だからこそできる支援は専門家であっても決してできないもの」→地域で暮らしている子育てに悩む親の助けになると期待されています。

「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」という文科省主催の初会合が9月に行われていました。課題として「教室の不足」「教員の専門性の確保」「福祉・医療機関などの外部との連携」等～しかし何と言っても「保護者、当事者の思い」は『乳児期から中学卒業まで、一貫した支援をしているかのように見えるが、実はぶつ切り状態～これは子どもが社会に出てよりよく生きるために学校教育はあるのだろうか？』といった特別支援教育の在り方に対する根本的な疑問に繋がり、不安を誘い、肯定的な子育てができない原因の一つであることが届いていないように思います。現状の課題と特別支援教育の活用法を考えて今後の「当事者研究からの地域支援力」が活かされるような「有識者会議」であって欲しいと願います。(T.Imou)